

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 保坂 美紀子 )
学 級 名	1年 3組	男子 13名 女子 10名 計23名
教 科 名	国語科	
単 元 名	じどう車くらべ(7時間中の5時間目)	
本時の目標	説明を読み,自動車ごとの「しごと」と「つくり」を捉えることができる。	
論理的思考 力をつける ための手立 て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u> 前時までの,バスや乗用車,トラックの学習を振り返って,見通しを持たせる。その際,「しごと」と「つくり」に視点を当てて学習していくことを確認し,クレーン車の学習で,主体的に学びに向かうことができるようにさせたい。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u> 三つの自動車を比べて,一番いいなと思った自動車について話し合う時に,選んだ事例とその理由を伝え合うことを通して,説明内容の理解を深めさせたい。その際,叙述を根拠にしている子どもを価値付けることで,根拠を明確にした話し合いを促したい。</p>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バスや乗用車の「しごと」と「つくり」</li> <li>トラックの「しごと」と「つくり」</li> </ul> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><u>めあて</u> それぞれのじどう車の「しごと」と「つくり」をくらべて,じどう車チャンピオンについてかんがえよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>クレーン車の「しごと」と「つくり」をよんでたしかめよう。</li> </ul> <p>3 クレーン車の事例を読んで問いに対する答えを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文を色分けし,ワークシートに書き込む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①しごと→赤で線を引く。</li> <li>②つくり→青で線を引く。</li> </ul> </li> <li>クレーン車の「しごと」 クレーン車はおもいものをつり上げるしごとをしています。</li> <li>クレーン車の「つくり」 じょうぶなうでが,のびたりうごいたりするように,つくってあります。</li> </ul>	<p>○前時までの学習を振り返り,バスや乗用車,トラックの「しごと」と「つくり」を板書や挿絵で確認させる。</p> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <p>手立て① 「動き出したくなる課題」</p> </div> <p>○前時までの学習を振り返って,見通しを持たせた上で,「しごと」と「つくり」に視点を当てて,主体的に学びに向かうことができるようにさせたい。</p> <p>○前時までと同様の事柄に沿って確かめることを確認する。</p> <p>○クレーン車の「しごと」と「つくり」を,本文から見つけ色分けさせる。</p> <p>○挿絵でクレーン車の「しごと」と「つくり」を確認し,理解させる。</p>

車たいがかたむかないように、しっかりしたあしが、ついでいます。

#### 4 三つの自動車を比べて、話し合う。

出てきた自動車の中で、一番いいなと思ったのはどの自動車ですか。

- 乗用車です。座席が広くて、リラックスできるからです。
- バスです。窓が大きいので、外の景色がよく見えて、楽しいからです。
- トラックです。タイヤがたくさんついていて、重い荷物を運ぶことができるからです。
- クレーン車です。じょうぶなうでが、伸びたり動いたりするからです。

#### 5 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。

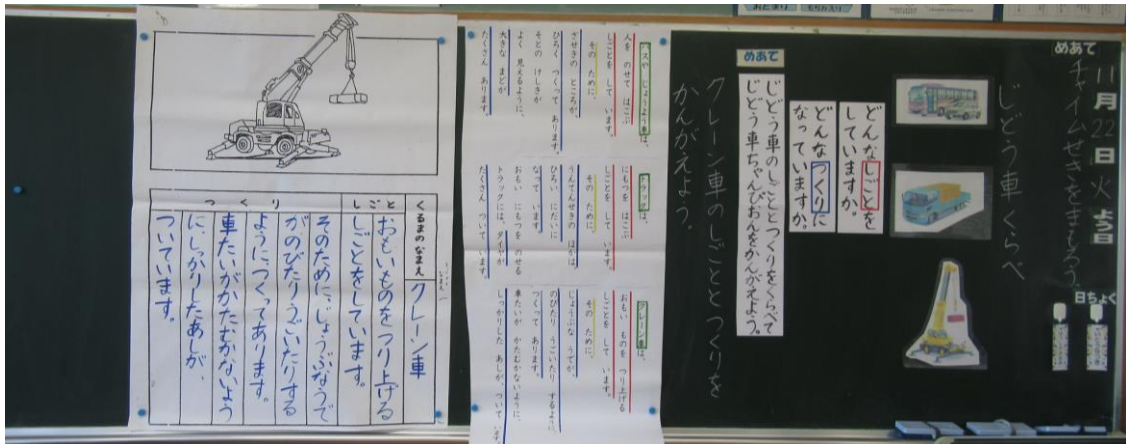
#### 手立て②「確かな発問」

○選んだ事例とその理由を伝え合うことを通して、説明内容の理解を深める。

○叙述を根拠にしている子どもを価値付けることで、根拠を明確にした話し合いを促す。

• 次の時間からは、自動車くらのように、消防車や自分の好きな自動車について調べてまとめ、自動車図鑑を作ることを知らせる。

#### 《最終板書》



#### 《実践を終えて》

##### 手立て①「動き出したくなる課題」について

前時までの、バスや乗用車、トラックの学習を振り返ることで、見通しを持たせることができた。その際、前時までと同様に、「しごと」と「つくり」に視点を当てて学習していくことを確認したことで、主体的にクレーン車の学習に向かうことができた。

##### 手立て②「確かな発問」について

三つの自動車を比べて、一番いいなと思った自動車について話し合う時に、選んだ事例とその理由を伝え合うことを通して、説明内容の理解を深めることができた。その際、文章構成を「しごと」と「つくり」に色分けして、三種類の自動車を提示したことで、叙述を根拠に意見を発表することができた。さらに今後は、言葉や語句を根拠に話し合いを深められるよう、子どもに考えさせる展開を工夫していきたい。

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 保坂 美久 )
学 級 名	3年 2組	男子 14名 女子 21名 計 35名
教 科 名	国語	
単 元 名	「修飾語を使って書こう」	
本時の目標	主語と述語との関係, 修飾語と被修飾語との関係について理解することができる。	
論理的思考力をつけるための手立て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u>  児童の課題に対する意欲を引き出すために, 課題となる写真をいくつか用意し, 児童に選ばせる。また, 課題に取り組む前に既習事項の復習をしたり, 例題と一緒に取り組んだりすることで, 見通しを持たせる。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u>  多様な考えを引き出す発問をする。自分の考えを持たせてから発表する時間を設ける。同じように考えた, 似ているけど少し違うところがある, など自分の考えと比較させる。また, どうしてそのように考えたのか根拠を所々で問いかける。</p>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>○ 主語と述語, 修飾語について確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主語は「何(だれ)は(が)」, 述語は「何だ, どうした」, 文章をくわしくする言葉は修飾語。</li> </ul> <p>○問題を確認し, 例文を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もっと修飾語を付け足せばくわしい文がくれそう。</li> <li>文を増やせばもっとくわしい文がくれそう。</li> </ul> <p>2 めあてを確認する。</p> <p>修飾語を使って写真の様子をくわしく書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各写真の主語や述語を出し合う。</li> <li>どの写真の様子を表したいか選ぶ。</li> </ul> <p>3 写真の様子を伝える文章を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を考えてワークシートに書く。</li> <li>早く終わったら別の写真でも考えてみる。</li> </ul> <p>4 考えたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まずはペアで発表する。</li> <li>全体で考えを発表し, 友達の考えを聞く。</li> <li>友達の考えの良いところや自分の考えと比べて気づいたことなどを話し合う。</li> </ul>	<p>・主語と述語のみカードで掲示し児童の発言を聞きながら修飾語を付け足す。</p> <p>・写真のどの部分から考えたのかを確認し, 写真と言葉をつなげて考えさせる。(根拠となる部分)</p> <p>・手立て①動き出したくなる課題</p> <p>・主語と述語を出し合うことで見通しをもたせる。</p> <p>・写真を選択させる。</p> <p>・自力解決では手が止まっている児童に声をかける。また, 写真の細かな部分にも注目して書くように声をかける。</p> <p>・ペアで発表させることで全員に発表の機会を設ける。</p> <p>・手立て②確かな発問</p> <p>・友達の考えと自分の考えを比べるように促す。</p> <p>・写真のどの部分から考えたのかを問う。</p>

5 まとめ

- ・授業のまとめをワークシートに記入する。

【まとめ】修飾語を使うと様子をくわしく表すことができる。

《最終板書》



《実践を終えて》

手立て①「動き出したくなる課題」について

写真を何枚か用意したことで、児童もどれにしようかと選ぶのを楽しんでいた。また、提示した写真3枚全部で文をつくりたいという思いをもち、意欲的に取り組んでいる様子が見られた。自ら写真を選択して取り組む活動は効果的であった。また、例題にみんなで取り組んだことで修飾語をたくさん入れようとする姿が見られた。一方で集団解決の場では考えを整理するのに時間がかかり、発表する児童の数が限られてしまった。課題に取り組むときに「修飾語は3つまで」など制限を設けることや、一人一台端末を活用するなどして、さらに考えが深まるような手立ても考えたい。

手立て②「確かな発問」について

自力解決の時間を十分に確保することができたことで、全体で考えを交流するときに友達の発言によく耳を傾ける姿が見られた。友達の考えを聞いて「おお～」「くわしいね」などとつぶやく声がたくさん聞こえてきた。そこから、「どんなところが良かった？」などと問いかけることで、こんな修飾語がよかった、と自分では思いつかなかった表現に注目しており、新しい表現を学ぶ機会になっていた。友達の考えを共有することでどんどん新しい言葉や表現の仕方を吸収しているのも、もっと他の友達の考えも共有したかった。そのためにはどんな手立てができるのかということが今後の課題である。

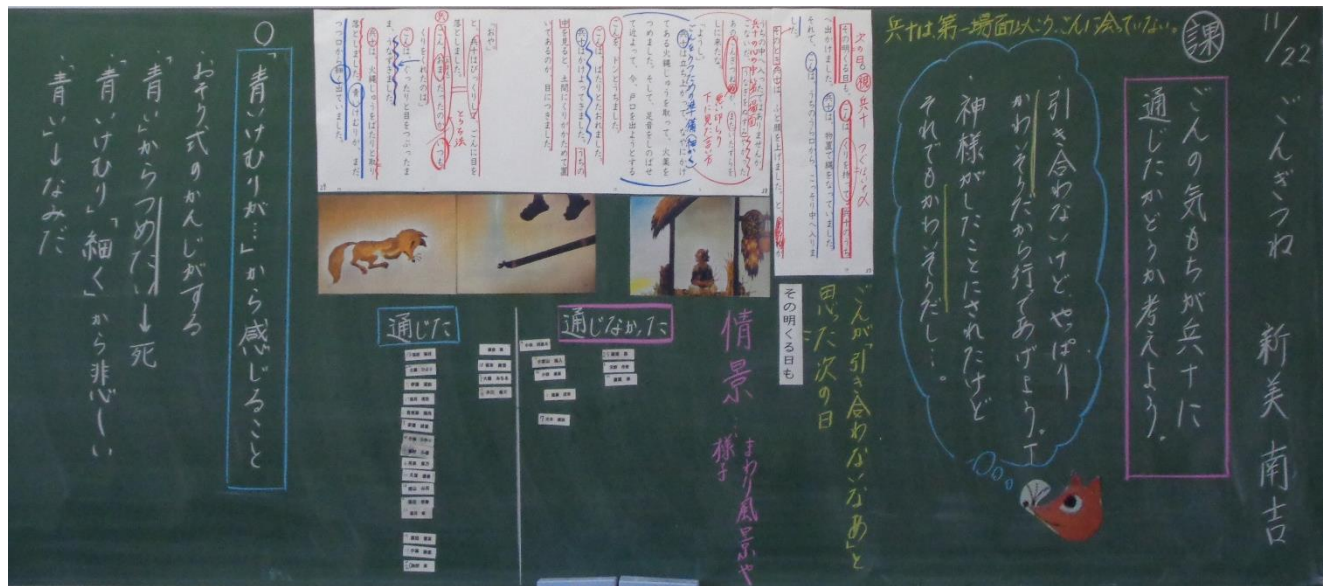
使用したワークシート

☘		☘	修飾語を使って書こう 【問題】写真の様子を文で書いて伝えよう。 えらんだ写真の番号「  」 名前( )
---	--	---	--

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者：(阿部 千春)
学 級 名	4年1組	男子14(16)名 女子15(17)名 計29(33)名
教 科 名	国語	
単 元 名	気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう「ごんぎつね」	
本時の目標	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することができる。(思C(1)エ)	
論理的思考力をつけるための手立て	<p><u>手立て①「動き出したくなる課題」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題を「ごんの気持ちは、兵十に通じたのか考えよう。」とし、「通じた・通じない」の二項対立構造の授業にすることで、自分の考えを持って授業に参加することができると思える。</li> </ul> <p><u>手立て②「確かな発問」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が自分の考えの根拠となる叙述をもとに、考えを発表したり深めたりすることができるように、問うたり、問い返したりする。</li> <li>・最後の「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」については、この一文があることで作者が何を伝えたいのかを考え、その考えを共有することで、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができるように問う。</li> </ul>	
	学習活動・内容	指導上の留意点
1	<p>本時の課題を確認する。(導入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんぎつね第6場面を音読し、本文の内容を把握する。</li> <li>・第6場面のあらすじを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">(課題) ごんの気持ちは、兵十に通じたのか考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入場面については、あらすじのみの確認とし、あえて深読みしない。</li> </ul>
2	<p>第6場面をこれまでの場面と結びつけながら読む。(展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「引き合わないなあ」思っていたのに兵十の所に行くごんの気持ちを考える。</li> <li>・ごんの気持ちが兵十に通じたかどうか、叙述に注目して読む前に、一度自分の立場を明確にする。(黒板に名前カードを貼る)</li> </ul> <p>○根拠となる叙述をもとに、ごんの気持ちが兵十に通じたか再度考える。</p> <p>○隣の友達と意見交流をする。</p> <p>○全体でそれぞれの立場の根拠となる部分に注目しながら、検討する。</p> <p>○再度、自分の考えの立場を検討する。 (立場が変わった人は名前カードを移動する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんと、それを見た兵十の気持ちを考える。</li> </ul> <p>○最後の一文「青いけむりが・・・」について、作者の意図を想像し、感じたことを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時の立場は「なんとなく」でよいとする。</li> <li>・根拠となる部分の教科書の本文に線を引き、プリントに書き写すよう指示する。</li> <li>・この部分については、それぞれの立場によって想像できる様子がちがうことを共有する。</li> <li>・答えはオープンエンドとし、一人一人の感じ方の違いに気づくことに重点をおく。</li> </ul>
3	学習感想を書く。	



## 《最終板書》



## 《実践を終えて》

### 手立て①「動き出したくなる課題」について

本時の課題をごんの気持ちは「通じた」か「通じなかつた」かの二項対立形式にしたが、児童と検討する中で、くりを置いていたことについても兵十に通じなかつたと間違えて捉えていた児童が見られたため、課題を「ごんの気持ちはどこまで伝わっていたか。」とした方がより児童が課題を捉えやすかったと感じた。

### 手立て②「確かな発問」について

児童がそれぞれの根拠となる叙述に基づいた考えを全体で共有することで、文章や言葉のひとつひとつに着目することができるような問いかけをするように気をつけた。想定よりも児童から根拠となる叙述が出てこなかったため、こちらから着目させて考えさせる場面もあった。

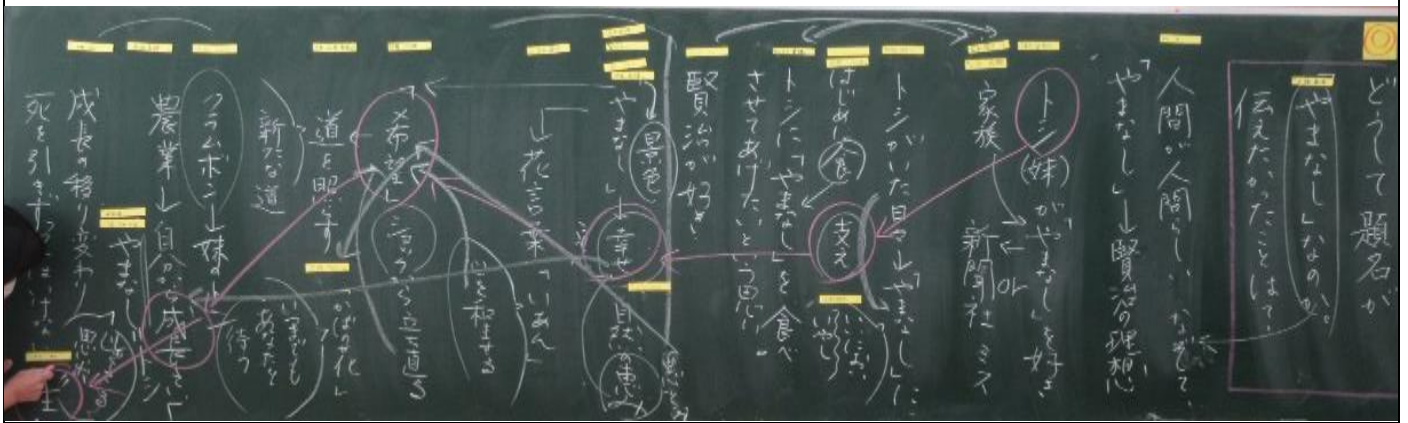
最後の一文については、その文章からどんな印象をもつか問いかけたが、あまり多くの意見がでなかったため、次時に再度検討することとした。

### 児童の学習感想より

- 最後はさみしい感じがした。
- 兵十の気持ちも少し分かりました。
- 今日は第6場面をしましたが、最後の一行でけてしてハッピーエンドではないと感じました。
- 「青いけむり」のところで少し悲しくなりました。
- 第6場面は何回読んでも悲しいと思いました。
- 第6場面は短いけれど、言葉一つ一つにこだわるといろいろなことが分かる場面でした。
- ごんがうたれてしまって「悲しいなあ」と毎日の音読で感じていましたが、今日は「青いけむり」からも悲しさを感じられました。
- 兵十視点で考えるとごんは「こんなことをしていたのか」みたいな考えが出てくると感じました。

授 業 デ ザ イ ン シ ー ト		授業者:( 小松澤 輝美 )
学 級 名	6年 4組	男子14名 女子14名 計 28名
教 科 名	国語科	
単 元 名	「やまなし」 宮沢賢治 作 (全8時間中 8時間目)	
本時の目標	◎作者は「やまなし」を通してどんな思いを表したかったのか、考えを伝え合う。	
論理的思考力 をつけるため の手立て	<p><u>手立て①「動きだしたくなる課題」</u></p> <p>○作者は「やまなし」を通してどんな思いを表したかったのかを、以下の3つの視点から自分の考えをまとめてきた。</p> <p>①5月と12月の二枚の幻灯に分けた訳</p> <p>②二枚の幻灯で対比された作者の気持ち</p> <p>③「やまなし」という題名にした訳</p> <p>○自分の考えをもとにして、作者の思いに迫っていく。</p> <p>○友達の考えを自分の考えと比較しながら聞くことで、多様な考えを知ることができる。</p> <p><u>手立て②「確かな発問」</u></p> <p>○自分の考えをもとにし、自信をもって伝え合うことができるよう、本時のめあてを明確に示し、意欲的・主体的に動き出せるように発問・指示をしていく。</p> <p>○考えの「根拠」「共通点・相違点」「良さ」を問いかけ、伝え合いの場面を深めるようにする。</p>	
学習活動・内容		指導上の留意点
<p>1 前時を振り返る。</p> <p>○ 「やまなし」を通してどんな思いを表したかったのか、まとめてきたことを振り返る。</p> <p>2 学習課題を把握する。</p> <p><u>課題：作者は「やまなし」を通してどんな思いを表したかったのか</u></p> <p><u>めあて：自分の考えを伝え合おう</u></p> <p>3 自分の考えを伝え合う。</p> <p>○自信をもって自分の考えを主体的に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えと似ている考えをもっている場合、続けて発表する。</li> <li>・違う考えを聞き合い、質問や感想など発表し、交流し合う。</li> </ul> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>○作者の思いをまとめる。</p> <p>○「雨ニモマケズ」を紹介する。</p>		<p><u>〈手立て①〉</u></p> <p><u>「動き出したくなる課題」</u></p> <p>○課題を明確に提示し、自信をもって考えを伝え合う意欲を促す。</p> <p><u>〈手立て②〉</u></p> <p><u>「確かな発問」</u></p> <p>○考えの「根拠」や友達との「共通点・相違点」考えの「良さ」などを問いかける。</p>

## 《最終板書》



## 《実践を終えて》

### 手立て①「動きだしたくなる課題」について

○自分の考えをもとにして、作者の思いに迫っていく。

- ・5月と12月を右と左で比較しながら読み進めることができるように教科書文をコピーし、自分の考えを書き込んだり印をつけたりさせたことで、文章を比較し対比している言葉や文章を分かりやすく捉えることができた。
- ・3つの視点を与えたことで、作者の思いや主題へ迫る手立てにすることができた。
- ・ノートに自分の考えを書く時間や、対比している言葉や文章、情景などを調べる時間を設けたことで全員の児童が、自分の考えをもち堂々と発表することができた。

○友達の考えを自分の考えと比較しながら聞くことで、多様な考えを知ることができる。

- ・どうして5月と12月なのか、色の対比や石の対比、かばの花ややまなしの花言葉から想像したことなど、様々な角度から考えをまとめた友達の意見を聞くことで、一つの物語から広がる多様な考えを知ることができた。

### 手立て②「確かな発問」について

○自分の考えをもとにし、自信をもって伝え合うことができるよう、本時のめあてを明確に示し、意欲的・主体的に動き出せるように発問・指示をしていく。

- ・これまでの学習の流れと本時のめあてをパワーポイントで明確に示し、意欲的・主体的に動き出せるようにしたことで、児童は本時の学習内容を確実に把握することができた。
- ・明確な発問であれば、児童は焦点をずらさずに自分の考えをまとめることができた。

○考えの「根拠」「共通点・相違点」「良さ」を問いかけ、伝え合いの場面を深めるようにする。

- ・問い返す発問をすることで、児童の考えの根拠となることを引き出すことができた。
- ・考えの発表場面では、全員を中心に向かせお互いに顔を見合わせる形態にしたことで、児童が友達の考えをよく聞き、自分の考えとの共通点や相違点、友達の考えの良さに気付くことができた。

### 児童のノートより

- ・「やまなし」の花の花言葉は、「慰安」（なぐさみをして心を休ませる）「愛情」などの意味がある。5月の場面ではかわせみの登場で、かへの兄弟が落ち着かない状態だったけど、12月の場面では、「やまなし」が落ちてきたことでかへの兄弟の心が落ち着いたので、賢治にとって「やまなし」は重要だと思って題名にしたと思う。賢治にとって大切なものとは妹の「トシ」との日常だと思う。その日常を「やまなし」に象徴されていると思う。
- ・「やまなし」という題名にした理由は、「12月」の場面では、賢治が妹のトシと過ごした思い出があって「やまなし」が賢治にとって何かの支えとしてとらえているのではないかと思う。